

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平8-266380

(43) 公開日 平成8年(1996)10月15日

(51) Int.Cl.⁶

A 4 7 F 7/00

識別記号

庁内整理番号

F I

A 4 7 F 7/00

技術表示箇所

V

審査請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願平7-71245

(22) 出願日 平成7年(1995)3月29日

(71) 出願人 391013047

株式会社ハゴロモ

東京都千代田区神田須田町2-6-5 O

S' 85ビル

(72) 発明者 伊藤 純一

東京都千代田区神田小川町1-11 株式会

社ハゴロモ内

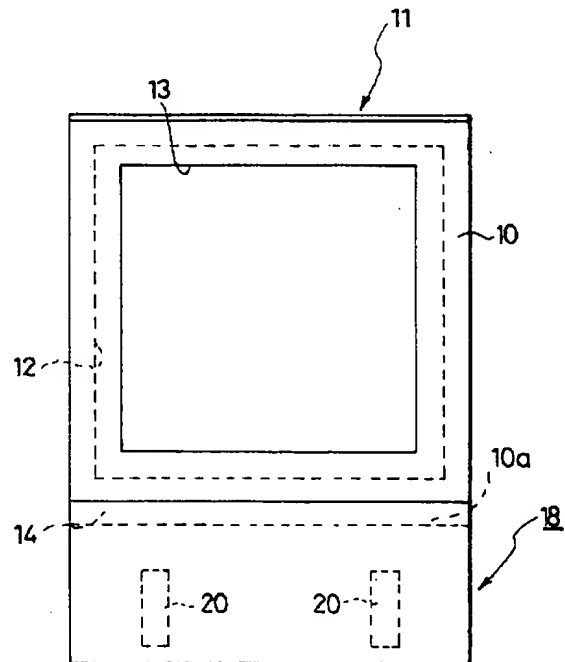
(74) 代理人 弁理士 佐々木 功 (外1名)

(54) 【発明の名称】 CD盗難防止ケース

(57) 【要約】

【目的】 手軽に装着及び取り外しのできるCD盗難防止ケースを提供することにある。

【構成】 CDを収納する凹部を有した本体収納ケースと、該本体収納ケースの開閉端部に着脱自在に嵌合されるロック機構部とを備えたので、手軽にロックする事ができると共に破壊されるおそれもない。



1

【特許請求の範囲】

【請求項1】 CDを収納する凹部を有した本体収納ケースと、該本体収納ケースの開閉端部に着脱自在に嵌合されるロック機構部とを備えたことを特徴とするCD盗難防止ケース。

【請求項2】 前記本体収納ケースは、一端にヒンジ部を備え他端の開閉側にロック機構と嵌合する嵌合凹部を備えたことを特徴とする請求項1記載のCD盗難防止ケース。

【請求項3】 前記ロック機構は、磁石で解除するロック部を備えたことを特徴とする請求項1記載のCD盗難防止ケース。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、CD (Compact Disc) ショップ、CDレンタル店、書店等のCDを販売、賃貸している店に於けるCD盗難防止ケースに関するものである。

【0002】

【従来の技術】 一般にCD等の盗難防止手段としては、CDケースに盗難防止用のコイルを貼着して、店の出入り口に配設したセンサーゲートを通過する際に検知するものが使用されている。この、盗難防止用のコイルは、消費者が正規の手続によりレジで取り外してもらう事により、センサーゲートを通過してもブザー等が鳴る事がない。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 しかし、上述のように従来のCD盗難防止ケースでは、盗難防止用のコイルを剥されたり、CD盗難防止ケース自体を破壊されて、中のCDのみを取り出されてしまう場合があった。また、嚴重に錠前でロックする場合でも、レジで容易に取り外す事ができなければ、その取扱いが煩雑であると言う欠点が存在した。

【0004】 本発明の目的は、これら従来のCD盗難防止ケースの問題点に鑑み、破壊が困難であると共に手軽に着脱できるCD盗難防止ケースを提供することにある。

【0005】

【課題を解決するための手段】 上記目的を達成するために、本発明のCD盗難防止ケースは、CDを収納する凹部を有した本体収納ケースと、該本体収納ケースの開閉端部に着脱自在に嵌合されるロック機構部とを備えたものである。また、前記本体収納ケースは、一端にヒンジ部を備え他端の開閉側にロック機構と嵌合する嵌合凹部を備えたことを特徴とするものである。

【0006】 更に、前記ロック機構は、磁石で解除するロック部を備えたことを特徴とするものである。

【0007】

【作用】 本発明に係るCD盗難防止ケースでは、容易に

2

本体収納ケースをロック機構でロックする事ができると共に、手軽に取り外す事ができるので、その取扱いが極めて簡便である。また、容易に破壊されるおそれもない。

【0008】

【実施例】 以下、本発明の実施例について、図面を参照しつつ説明する。図1は本発明のCD盗難防止ケースの一実施例を示す平面図、図2は本体収納ケース開閉端をロックするロック部を示す平面図、図3は図2のA-A線断面図である。

【0009】 本体収納ケース10は、ヒンジ部11で開閉自在に構成されると共にCDを収納するための凹部12を有している。また、本体収納ケース10は、窓13を有しておりCDのラベル等が外部から視認できる。本体収納ケース10の開閉端部10aは、係合段部14と嵌合凹部15とを有している。

【0010】 また、開閉端部10a、10aの接合面には、接合突起16と接合凹部17とが形成されており、開閉端部10aを重ね合わせた際に、嵌合するように構成されている。係合段部14は、本体収納ケース10の開閉端部10aに形成されており、後述するロック機構と係合する。更に、嵌合凹部15は、開閉端部10aに横溝状に形成されている。

【0011】 ロック機構部18は、摺動部18aと固定部18bとから構成されている。図3に示すように摺動部18aと固定部18bとは、楔状係合片19a、19bで摺動可能に係合している。また、摺動部18aには、吸磁性のロック片20が固定部18bとの対向面に固定されている。

【0012】 ロック片20は、弾性体からなり先端に係合突起20aが形成されている。また、固定部18bのロック片20と対向する面には、係合凹部21が形成され、ロック片20と係合可能に配置されている。固定部18bの先端には、段部22が形成されている。更に、ロック片20は、吸磁性を有しているので、外部から磁石を近づける事によりロックを解除する事ができる。

【0013】 次に、以上のように構成されたCD盗難防止ケースの使用方法について説明する。まず、本体収納ケース10内の凹部12にCDを収納する。本体収納ケース10の開閉端部10aを閉じ、図4に示すように嵌合凹部15に固定部18の段部22に係合させる。そして、矢印A方向に摺動部18aを摺動して行く。

【0014】 摺動部18aを最後まで摺動させると、図5に示すように摺動部18aの先端が係合段部14を押えと共に、ロック片20の係合突起20aが係合凹部21に係合しロックされる。したがって、ロック機構部18は、本体収納ケース10から外れる事がない。

【0015】 また、ロック機構部18のロックを解除する場合は、図6に示すようにロック片20の近傍に磁石23を近接させる。すると、吸磁性体で構成されたロッ

3

ク片20は、想像線で示すように上に反り上がり、係合凹部21との係合が解除される。ここで、図7に示すように矢印B方向に摺動部18aを摺動させると、係合段部14と摺動部18aの先端との係合が解除され、本体収納ケース10からロック機構部18を取り外す事ができる。

【0016】この様に、本発明のCD盗難防止ケースでは、本体収納ケース10の内周等に盗難防止コイル等を貼着しておけば、外部から剥されるおそれもない。更に、磁石で容易に解除する事ができるので取扱いが容易である。

【0017】尚、本発明は以上の実施例に限る事なく、本発明の技術思想に基づいて種々の変形が可能である。

【0018】

【発明の効果】以上説明したように、本発明のCD盗難防止ケースでは、CDを収納する凹部を有した本体収納ケースと、該本体収納ケースの開閉端部に着脱自在に嵌合されるロック機構部とを備えたので、盗難防止用のコイルを剥されたり、CD盗難防止ケース自体を破壊される虞がない。

【0019】また、磁石により容易にロックを解除する事ができるので、店員等が手軽にレジで取り外して防犯機能を解除する事ができる。更に、CD盗難防止ケースの内側に盗難防止用のコイルを貼着すれば、剥される事もない。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明のCD盗難防止ケースの一実施例を示す平面図である。

【図2】本体収納ケース開閉端をロックするロック部を

4

示す平面図である。

【図3】図2のA-A線断面図である。

【図4】本発明のCD盗難防止ケースの装着状態を示す要部断面図である。

【図5】本発明のCD盗難防止ケースの装着状態を示す要部断面図である。

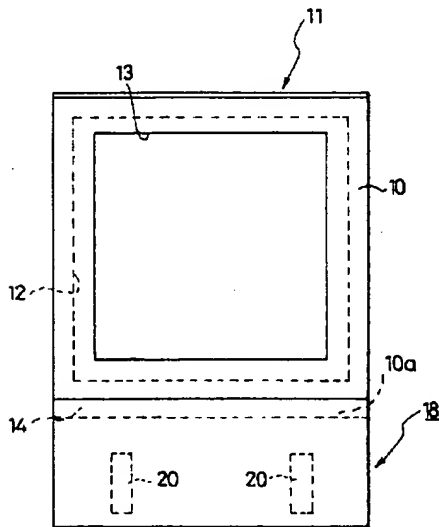
【図6】本発明のCD盗難防止ケースの装着状態を示す要部断面図である。

【図7】本発明のCD盗難防止ケースの装着状態を示す要部断面図である。

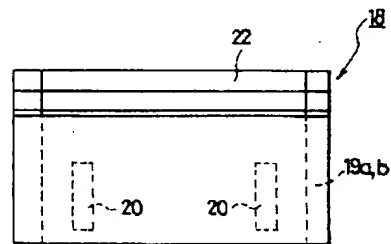
【符号の説明】

| | |
|-----|---------|
| 10 | 本体収納ケース |
| 10a | 開閉端部 |
| 11 | ヒンジ部 |
| 12 | 凹部 |
| 13 | 窓 |
| 14 | 係合段部 |
| 15 | 嵌合凹部 |
| 16 | 接合突起 |
| 17 | 接合凹部 |
| 18 | ロック機構部 |
| 18a | 摺動部 |
| 18b | 固定部 |
| 19a | 楔状係合片 |
| 19b | 楔状係合片 |
| 20 | ロック片 |
| 21 | 係合凹部 |
| 22 | 段部 |
| 23 | 磁石 |

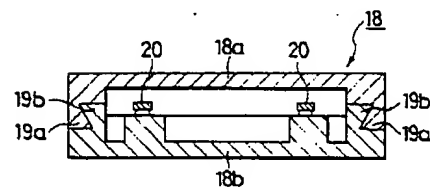
【図1】



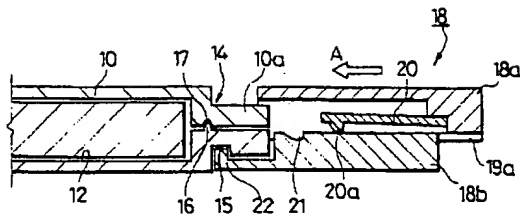
【図2】



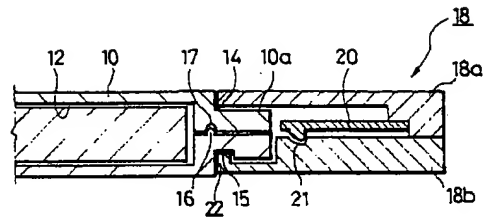
【図3】



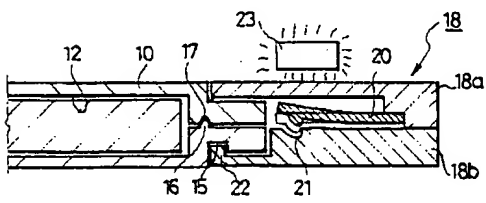
【図4】



【図5】



【図6】



【図7】

